

作成日	2019年7月8日
学科・専攻名	生活福祉学科

教育課程・学習成果

1. 教育課程編成・実施の方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していますか。

【現状説明】

生活福祉学科では教育課程編成・実施の方針に基づき、科学的に事象を理解する方法論や幅広く生活福祉学の分野についての知見を身につけることができるよう、各科目の関係・順次性を明示した体系的な教育課程を編成している。1年次では、介護、社会福祉、医療など、生活福祉に関する基礎的知識を身につけ、介護福祉、社会福祉、養護教育の学びを始めていく。2年次からは、介護福祉、社会福祉、養護教育における、より発展的科目が開講され、相互に関連する授業科目が配置されている。3年次からは学生個々の希望の資格取得や将来のキャリアを考慮した科目選択に移行できるよう、専門科目が配置されている。介護福祉、社会福祉、養護教育における学外実習の主たる時期にも該当する。また、生活福祉演習等、本格的なゼミ授業が始まり、それまでの学習を総合して、指導教員の個別指導を受けつつ、4年次にかけて卒業研究の完成を目指すという、体系的な編成となっている。また、学科のポリシーと授業科目との関係については、カリキュラム・マップや履修モデル等を通じて解説している。

【成果および向上施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし

【課題および改善施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし

2. 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための措置を講じていますか。

【現状説明】

本学科では、全年次においての少人数演習科目を必修科目として配置し、入学から卒業まで教員と学生との距離の近い教育に注力している。1年次の生活福祉入門演習では、教員は1クラス10名以下の学生数で担当をし、大学入学後の戸惑いや小さな不安等にも目配りできる体制を整えている。大学生活へのスムーズな移行をサポートするとともに、前期は大学での学びの基礎となるアカデミック・スキルの習得を目的として、学内共通テキスト「アカデミック・スキル」も活用して初年次教育の充実を図る。後期には2年次から本格的に開講される専門科目への導入期間として、各教員の専門性を生かしたゼミ形式の演習を経験し、各分野の専門性に触れる機会となる。2年次の生活福祉基礎演習では、3年次から始まる卒業研究のためのゼミ選択に向けて、更に専門性を高めていく。その他、多数の履修登録者がいる科目では、同一科目を複数コマ開講することで適正規模による授業運営に努め、講義科目においてもグループワークやコメントシートを活用したフィードバック等のアクティブ・ラーニングを取り入れ、学生の主体的参加を促すよう工夫している。資格取得に向けた学内実習、学外実習も多くあり、教員及びラボラトリースタッフによる実習サポート体制において円滑な実習が行われている。

【成果および向上施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし

【課題および改善施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし

3. 学生の学修成果を把握し、教育課程及びその内容、方法の適切性についての点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに教育の質向上に向けた取り組みを行っていますか。

【現状説明】

教育課程及びその内容、方法の適切性については、授業評価アンケートや学生生活実態調査、卒業時満足度調査の結果から検証している。授業評価アンケートについては、各教員はアンケート結果に対する「授業評価所見」を公表しているが、個人での検証に留まっており学科として組織的な検証に取り組むことが課題である。また2018年度学生生活実態調査結果では、講義内容についての満足度が他学科と比べてやや低い数値であり、カリキュラムに対しての不満を感じる学生が他学科と比べてやや高くなっている。これらを踏まえたカリキュラムの改正は改組による新課程への移行後、順次進められるため、今後の経過を注視したい。学生生活実態調査（P174～）では、入学してから「とても成長したと思う」「ある程度成長したと思う」の合計数の割合が1回生（49%）よりも4回生以上（78.4%）で増加し、学生の成長に貢献できる教育課程になっていると思われる。

その他の改善に結びつける取り組みとしては、全学のFD講演会、学科内のFD研究会（教員によるグループワーク等）、FD交流会（事例発表）、公開授業への参加、学外のFD関連研修・講演会への個別参加等を通して行っている。

【成果および向上施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

養護教諭の採用率及び社会福祉士国家試験合格率は高水準で維持できている。介護福祉士資格取得者もいる。卒業率は2017年度に95.6%だったのが2018年度には98.9%まで改善しており、卒業延期者数も減少している。担当教員が学習面談で履修指導をきめ細やかに行うとともに、京女ポータル上で個々の教員が学生の学習状況を把握することが可能となったため、各学生への指導へ反映することができるようになったことが一因と考えられる。

【課題および改善施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし

教員・教員組織、FD

1. 教員組織の編成(募集・採用・昇任等)にあたって、職位構成および年齢構成の偏りに配慮した編成をおこなっていますか。また、カリキュラムに基づく教員組織となっていますか。

【現状説明】

教員組織のバランスについて、50代を中心とした組織となっており、今後の後任採用にあたっては30～40歳代の講師・准教授の採用を目指し、継続性のある学科運営ができる年齢バランスを考慮する。昇任のための基準の策定も進行中である。カリキュラムとの関連については、カリキュラム・ポリシーを踏まえ、介護福祉領域、社会福祉領域、養護教育領域で構成されるカリキュラムに対し、介護福祉学、社会福祉学、健康科学、教育学等を研究分野とする教員を配置しており、カリキュラムと各研究分野が整合している。

【成果および向上施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

教員一人当たりの学生数は2017年度28.2人から2018年度32.9人へと増加、担当コマ数平均も6.4から6.7へと増加している。教員負担は増加しているため、教育力の低下を防ぐためにも、業務の効率化、省力化を目指す事を検討し、実現していきたい。

【課題および改善施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし

2. 学科・専攻独自の FD 活動を実施し、教員の資質向上に取り組んでいますか。

【現状説明】

2018 年度は学科独自 FD として「特別支援教育に関わる最新の状況について」と題して実施し、情報共有・議論をおこなった（参加人数は記録なし）。教育活動（授業の分かりやすさ、履修指導等）に対する学生の満足度については、「授業アンケート」や「学生生活実態調査」を基に、学科会議で検証している。

【成果および向上施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし

【課題および改善施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

多人数クラスにおけるアクティブ・ラーニングの導入に向けた、学内のハード面（教室設備の改修等）・ソフト面（方法の共有等）の整備に、学科としての提案をまとめ提言していくことを目指す。

内部評価委員会からの評価結果（内部評価結果レポート）

一般的なコメント（総評）

目標が具体的に設定されており、達成のために施策が行われていると評価できますが、一部の記載内容で具体的な数値を用いた説明が必要である点および具体的な改善施策の説明が必要である点は、以下の改善勧告コメントとして示します。

改善勧告コメント（具体的な改善の指示）

- 記載内容について、以下に示す項目は、具体的な数値を示して説明してください。
 - ・ **教員・教員組織、FD** の 2 の【現状説明】「多数の教員が参加し」の部分
 - ・ **教育過程・学習成果** の 2 の【成果および向上施策】「平均履修（科目）数が多い」や「高い GPA 平均」の部分
また、学生の高い GPA 平均を成果として挙げられていますが、本学の成績評価は全学的な相対評価ではなく、各教員による絶対評価で行われています。今回、生活福祉学科学生の GPA 平均が他学科より高いとのことですが、学科の成績評価基準が全体の傾向より低い可能性は無いか、成績評価の分布に偏りは生じていないか等、この点も含めて再検証し文章化してください。
 - ・ **教育過程・学習成果** の 3 の【現状説明】「割合が増加し」の部分
- 教員・教員組織、FD** の 2 の【課題および改善施策】に記載の「学内のハード面、ソフト面の整備」に関して、より具体的に記載してください。

内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見

意見

曖昧な表現や数字の読み取りの不適切な点をご指摘いただいた該当箇所について、加筆・修正致しました。